

編集後記

織田千賀子他の第1論文は、看図アプローチ発展の推進力となっている「ふじかん」からの実践報告です。この論文は、まだ桜前線が北上中の4月に投稿いただきました。この「ふじかん」報告は、三段重ねのお花見弁当のように華やかな実践です。アイデアが盛りだくさんで、お重を一段開けるごとに新しい発見があり感動が生まれてきます。私もこのワークショップに参加させてもらいましたが「えっ、こうだったのか!」「これがこうなるのか!」「なるほど!納得!」と、何度も感じることができました。看図アプローチは「多段階動機づけ」を重視しています。多段階動機づけを実現し、さらに看図アプローチの新境地を開拓している「ふじかん」の真骨頂にぜひ触れてみてください。

第2論文は、いつもスマートでエレガントな実践を届けてくれる熊本チーム寺田昂世・溝上広樹からの投稿です。この論文は、冒頭に掲載する「概要」から、もうすでに面白いです。時代のニーズに合わせて、さらにその先をいく新しさがよく伝わってきます。AIを使いこなし、曖昧さや余白を含む教材価値の高いビジュアルテキストの生成にも成功しています。また、教科学習以外の成果もとても参考になります。学習指導要領等には「情報モラルも含む」という記述がよく出てきます。この「情報モラルも含む」授業を具体的にどうしたらいいのか、私自身よくイメージできずにいました。寺田・溝上論文を読んで、その授業をイメージすることもできました。

第3論文は、徳田憲一郎・溝上広樹からの報告です。徳田の実践に基づく全国看図アプローチ研究会へのデビュー論文になります。とにかく独創的で、読みながら「たくさんのアイデアが詰まった宝石箱のような実践だ」と何度も思いました。生徒たちにAIと協同学習させてしまうという発想からして斬新です。論文中の言葉を引用すれば次のようになります。

「対話型生成AIは、正答を提示する道具ではなく、学習者の問いを引き出し、仮説検証を促す対話相手として設計した。」

この大きな発想の転換によって、AIの答えを鵜呑みにしないクリティカルシンキングを引き出せています。さらに「方士」との対話という物語性のある演出も、生徒たちの思考をファシリテートする効果的な仕掛けになっています。宝石箱を開けていくワクワク感も楽しみながら読み進めることができます。ぜひお読みいただき、さまざまな科目や領域で発展的に活用していける大きな可能性を探っていただければと思います。

<表紙を読み解く>

表紙写真は、「くだもの王国」から届いた「贈り物」です。ちょうど研究誌29号の編集作業真っ盛り時に山形から届きました。山形天童羽陽学園短期大学で活躍している、渡辺聡会員からのお心尽くしです。おかげさまで豊かな夏の実りを堪能することができました。



桜前線が北上中に始まった29号の編集も、サクランボの実りの時期に佳境を迎えました。時の移ろいは早いものです。時代も急激に変化しています。しかし、看図アプローチは確実にその変化に対応できています。のみならず時代の変化をリードする力にもなれています。29号に掲載した3つの論文は、どれも教育の現場に立つ先生方の日々の努力を未来の教育につなげていくための「贈り物」になっています。29号は表紙から内容までキーワードは「贈り物」です。皆様ありがとうございます。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 29 号

発行年月日 2026年6月22日

編集 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員会

石田 ゆき

伊藤 公紀

溝上 広樹

織田 千賀子

鹿内 信善*

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

編集長・DTP・表紙デザイン・事務局長 石田ゆき

発行者 全国看図アプローチ研究会

〒069-0826 北海道江別市あさひが丘 12-16

電話 090-2402-9204

kanzu-approach.com



ISBN978-4-9914030-0-2